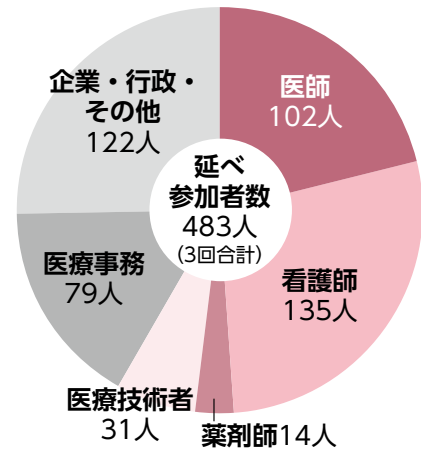


参加者の声



- 地域医療のひっ迫した現状に危機感を感じた。地域活性化には医療と産業の協力が欠かせないと痛感
- 熱傷の緊急入院基準や、他院への転院搬送の前に自院で行なうべき処置を理解することができた
- 化学薬品の危険性を再認識できた。受傷した状況をしっかりと患者さんから聞き取ることが大切であると学んだ
- 地元企業の作業環境を知ることができた。患者さんを受け入れる医療従事者として、院内で情報共有していきたい
- 他社で想定されている労災事例が参考になった

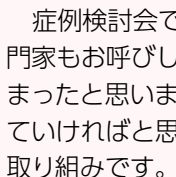
症例検討会のこれらに向けて

AGC株式会社 鹿島工場 折原 勝 工場長 (企業・医療機関・行政連絡調整会議委員)



企業の願いは、一次救急・二次救急をできるだけ市内で受け入れていただくこと。そのような中で、熱傷・薬傷症例検討会を開催していただき、大変ありがたく感じています。化学薬品を扱う企業としては、万が一の薬傷に備えて、日中だけでなく夜間や休日にも一次処置に対応できる市内の体制整備が重要であると考えておりますので、症例検討会の継続・発展に期待しています。

神栖産業医トレーニングセンター 田中 完 統括指導医 (第1回、第3回講師)



症例検討会では大変多くの医療従事者の方と企業の方に参加していただきました。また専門家もお呼びして、産業都市である当地の労働災害受け入れについて、ずいぶん理解が深まったと思います。これを機に医療側は対応力を高め、労働者が安心して働ける地域となっていければと思います。企業誘致が地方の重要施策となる中で、全国的にも珍しい先進的な取り組みです。今後もさまざまな労働災害について学びの場が広がることを期待します。

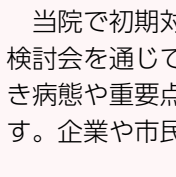


鹿嶋ハートクリニック 佐藤 寿俊 副院長 (第1回座長)



就労中に従業員が熱傷・薬傷を被った場合、企業としては従業員を守りたい一心で、軽症であっても重症扱いをして救急車を要請することがありました。一方で「熱傷患者が受診を希望する」情報を救急隊から受けた医療機関は、自施設で対処可能な程度なのか判断に迷うことが多かったようです。本検討会により、軽症の患者さんが高度医療機関に搬送されて医療体制に負荷がかかる事例が改善することを期待しています。

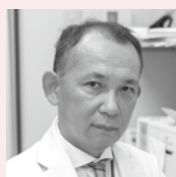
白十字総合病院 村上 大介 循環器内科部長 (第2回座長)



当院で初期対応にあたる医師・看護師の多くが参加し、とても勉強になりました。この検討会を通じて「薬傷・熱傷は専門外でも処置できる症例が多い」ことを認識し、搬送すべき病態や重要点も理解できました。その後、該当症例の診療も少しずつ増えてきております。企業や市民の皆さまに安心いただける初期診療体制を引き続き整えてまいります。



神栖済生会病院 西 功 副院長 (第3回座長)



一般勤務医にとって労災患者さんを診る機会は少ないので、症例検討会を3回開催したことにより、患者受け入れに対する医療機関の意識は変わったと思います。今後は、軽症の労災患者さんが、どの病院・診療所を受診し、その経過がどのようになったのかについて検証を行ない、この地域の共通財産とするべきであると思います。

このシリーズでは、市の地域医療を支えるさまざまな人にもスポットを当て、その取り組みなどを紹介します。

地域医療推進課 Tel.0299-77-8207

みんなが創る！みんなを守る！ かみすの医療



vol.6

熱傷・薬傷症例検討会がスタート



会場やウェブで約130人が参加



講義「当コンビナートに多い労災、特徴的な労災事例」(田中 完 医師)



発表「企業の初動対応について～アンケート結果から～」(左から林 卓哉 医師、地域医療推進課 山澤 翼 係長)

“市内で救急受入を” 医師の思いがカタチに

鹿島臨海工業地帯を有する神栖市には、180社余りの企業が立地。化学薬品を取り扱い、24時間操業を続ける企業からは「万が一の労災発生時には、できるだけ地元で受け入れてほしい」という切実な要望がありました。一方で、産業都市特有の疾患である熱傷や薬傷(化学物質によるやけど)の救急搬送を振り返ると、入院の必要がない軽症であっても、遠方の医療機関に搬送されているケースが多くありました。

このような反省を踏まえ、「熱傷・薬傷の基本的な治療法を学び、救急患者の受け入れを進めよう」との市内医師からの提案により、症例検討会がスタート。今年度は、当地域の救急患者を受け入れた病院から専門医などを講師に招き、3回開催しました。

高まる機運、さらなる展開へ

毎回、医師や看護師などの医療従事者のほか、企業の社員や救急隊などが参加しました。1月25日に開催した第3回では、今年度のみとめとして、当コンビナートで起こりやすい熱傷・薬傷の労災事例や企業における発生時の初動対応などをあらためて確認。さらに、企業で労災を引き起こすヒューマンエラーの防止に努めていることも共有しました。

3回を通じて、救急医療機関の受入機運が高まるとともに、症例検討会の趣旨に賛同した市内の専門クリニックが救急患者の受け入れを開始するという新たな動きにつながりました。今後もこのような取り組みを継続し、産業都市にふさわしい医療体制づくりを進めていきます。

2023年度の開催状況

日付	場所	講師など
第1回 9月22日	はさき保健・交流センター	田中 完 (神栖産業医トレーニングセンター統括指導医) 東 修智 (旭中央病院形成外科医長)
第2回 11月16日	かみす防災アリーナ	盛山 吉弘 (土浦協同病院皮膚科部長) 原 義明 (日本医科大学千葉北総病院救命救急センター部長)
第3回 1月25日		林 卓哉 (神栖産業医トレーニングセンターセンター長) 田中 完 (神栖産業医トレーニングセンター統括指導医)